

アフリカのキリンいろいろ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

ラ湖国立公園では、全身が限りなく黒色に

アフリカ大陸に広く分布しているキリンですが、体の斑紋によって、微妙に種類が違います。

最も数が多いのは、マサイキリンという種で、不規則な星状ともツタの葉状とも見える斑紋が全身に見られます。

アフリカ大陸を横断する赤道にまたがって暮らしており、家族・群れの単位で行動します。マサイキリンの分布範囲は、もともと遊牧の民として有名なマサイ族が多い地域である“マサイランド”と重なっているため、いつの頃からか、マサイキリンと呼ばれるようになりました。

マサイキリンはケニアの赤道以南から、タンザニア中央部にかけてよく見ることができますが、地域によって特色があることがわかります。

子どもに「キリンの絵を描いてごらん」と言っても、画用紙とクレヨンを渡しますと、ほとんどの子どもは黄色と茶色のキリンを描きます。ところが、実際のマサイキリンの体の色は、ベージュ色だったり、濃げ茶色だったり、ずいぶん違ってきます。

たとえば、タンザニア北部にあるマニヤ



写真1 星のような斑紋のマサイキリン

近いマサイキリンを見ることがあります。これは代々濃い体色の家系のキリンが暮らしているため、だということですが、私たちの常識がくつがえる発見ですね。数年前にマニヤラ湖を訪れて、黒っぽいマサイキリンに出会った時は、ほんとうにびっくりしましたが、マニヤラ湖畔に住むすべてのマサイキリンがこのように黒っぽくなるわけではなく、特定の家系で、その中でも雄に限られる。という話を動物監視官から聞きました。

一方、赤道よりも北の限られた地域ケニア北部、ソマリアの一部で見られるアミメキリンは、台形や六角型のように、比較的角

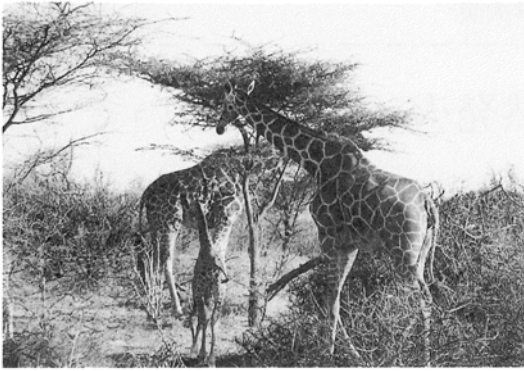


写真2 台形のような斑紋のアミメキリン

ばった規則正しい斑紋が並んでいるキリンです。

マサイキリンの亜種だという説がありますが、模様を見る限りでは、共通点があるようには思えません。

さらにマサイキリンでもなく、アミメキリンでもない第3のキリンもいます。それはロスチャイルドキリンというキリンで、別名ウガンダキリンとも呼ばれています。もともとウガンダ北東部やケニアの北西部に限られて生息するこのキリンは、一時期絶滅が危ぶまれましたが、保護活動が効を奏して、各地で見られるまでに数が増えました。

ロスチャイルドキリンの斑紋は、アミメキリンの斑紋とよく似ており、台形のような型が並んでいます。ところが、アミメキリンとの違いは、膝から下に模様がなく、無地で白くなっています。このことから、ロスチャイルドキリンは、“白いハイソックスをは

いたキリン”というニックネームも付けられています。

余談ながら、動物園がないケニアの子どもたちは、身近かなところで野生動物を見る機会がありません。高学年になれば、スクールバスに乗って国立公園まで遠足に出かけるチャンスもありますが、町に住むほとんどの子どもは、生きている野生動物を一度も見たことがないので

す。そこで、ケニアの首都ナイロビには、学生たちにロスチャイルドキリンの大きさを知り、餌を与えて、キリンのことを知ってもらうための施設、「キリンセンター」があります。

絶滅から救うために保護された一頭のメスのロスチャイルドキリンがきっかけとなり、20余年たった現在では、オス、メス合わせて8頭のロスチャイルドキリンが、広い敷地で伸び伸びと暮らしています。

先生に引率されてこの「キリンセンター」を訪れる子どもたちは、行儀良く並び、センターの係員の説明に耳を傾け、順番にキリンの目線と同じ高さの建物2階にあるテラスに立ち、おっかなびつくりの表情で餌を与え、大はしゃぎです。

当初は学生に限って開放していた「キリンセンター」ですが、数年前からは一般にも開放するようになり、今は誰でもキリンとふれ合うことができます。

〈キリンひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダ)などで話されている公用語のスワヒリ語で、キリンは「トゥイガ」と呼ばれている。

▶野生のキリンの寿命は、25～30年。

▶キリンの体重は、成獣のオスが1,000kg前後、メスが750kg前後。

▶キリンの舌の長さは30cm以上。刺の多いアカシアの葉も上手に食べる。